中学３年　国語科　教材別テスト⑦「夏草―『おくの細道』から」

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　歴史的仮名遣い・古典の知識・読解

３年　　組　　番　　氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【注意事項】

- 問題は「一」から「四」（Ｐ．１～Ｐ．５）までです。解答はＰ．６～Ｐ．９の解答用紙に書きなさい。
- 大問二・三・四は、**教科書『国語３』（光村図書）の「夏草」を開いて**解答しなさい。
- 設問の中に引用した古文は、歴史的仮名遣いのままで示してあります。
- 解答は、解答用紙の適切な欄に、ていねいに楷書で書きましょう。
- 句読点やかぎかっこなどの符号も一字と数えます。

知識・技能　（５０点）

一　次の――線部について、漢字はその読みをひらがなに直し、ひらがなは漢字に直して書きなさい。ただし、送りがなが必要な場合（⑦⑯⑰⑳）は、必ず書くこと。　１点×20＝20点

① 旅程を確かめる。
② 俳諧をたしなむ。
③ 漂泊の思いがつのる。
④ かつての栄華。
⑤ 無常を感じる。
⑥ 夢の跡をたずねる。
⑦ 勢いが衰える。
⑧ 奥州の地をめぐる。
⑨ 古代の遺跡。
⑩ 五月雨が降る。
⑪ 山のとうげを越える。
⑫ 宿にしゅくはくする。
⑬ 美しいふうけい。
⑭ 古いせんじょう。
⑮ へいしが集まる。
⑯ 長い道がつづく。
⑰ 一族がほろびる。
⑱ 試合の前にきんちょうする。
⑲ えいえんに残る。
⑳ 寒さにふるえる。

二　歴史的仮名遣いと古語の意味について、次の問いに答えなさい。　18点

（1）～（4）　次の――線部を**現代仮名遣い**に直し、**すべてひらがな**で書きなさい。　2点×4＝8点

(1)　「まづ高館にのぼれば」

(2)　「いづれの年よりか」

(3)　「行きかふ年もまた旅人なり」

(4)　「片雲の風にさそはれて」

（5）～（9）　次の古語の意味としてあてはまるものを、それぞれ後から一つ選び、記号で答えなさい。　2点×5＝10点

(5)　古人（「**古人**も多く旅に死せるあり」）

ア　昔の人。　　イ　年老いた人。

ウ　亡くなった人の霊。　　エ　古くからの友人。

(6)　田野（「秀衡が跡は**田野**になりて」）

ア　広い海辺。　　イ　田畑や野原。

ウ　山あいの小道。　　エ　人が多く集まる市場。

(7)　義臣（「さても**義臣**すぐつてこの城にこもり」）

ア　主君にそむいた家来。　　イ　外国から来た使者。

ウ　忠義をつくす家来。　　エ　身分の高い貴族。

(8)　旧跡（「泰衡らが**旧跡**は」）

ア　新しく開かれた土地。　　イ　先祖をまつる墓。

ウ　昔、事件や建物があった所。　　エ　戦いに勝った者に与えられる土地。

(9)　時のうつるまで（「笠うち敷きて、**時のうつるまで**泪を落としはべりぬ」）

ア　時代が移り変わるまで。　　イ　季節が変わるまで。

ウ　時計の針が進むまで。　　エ　長い時間がたつまで。

三

『おくの細道』についての古典の基礎知識と、俳句の形式について、次の問いに答えなさい。 12点

(1)　『おくの細道』が成立した時代を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 2点

ア　平安時代　　イ　鎌倉時代　　ウ　江戸時代の前期　　エ　明治時代

(2)　『おくの細道』の文章の種類（ジャンル）を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 2点

ア　随筆　　イ　紀行文（俳諧紀行）　　ウ　軍記物語　　エ　和歌集

(3)　この旅に作者と同行した弟子の名前を、**漢字**で書きなさい。 2点

(4)　芭蕉が確立した俳諧の作風を何というか。次から一つ選び、記号で答えなさい。 2点

ア　蕉風　　イ　貞門　　ウ　談林　　エ　天明調

(5)　この旅の出発地を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 1点

ア　京都　　イ　江戸（深川）　　ウ　大阪　　エ　平泉

(6)　俳句は、五・七・五の（　　）音からなる。（　　）にあてはまる言葉を**漢数字**で書きなさい。 1点

(7)　「夏草や兵どもが夢の跡」の**切れ字**を、**一字**で書き抜きなさい。 1点

(8)　「五月雨の降り残してや光堂」の**季語**と、その**季節**を書きなさい。【完答】 1点

思考・判断・表現　（５０点）

四　教科書『国語３』（光村図書）の「夏草」を開いて解答しなさい。　50点

（１）冒頭の「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」が表している考え方を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア　月日や年月もまた旅人のようなものであり、とどまることなく過ぎ去っていくという考え方。

イ　月日は人を待ってくれないので、とにかく急いで生きるべきだという考え方。

ウ　旅人は月日のように自由に動けるので、うらやましいという考え方。

エ　月日が過ぎれば、どんな悩みも自然に消えてしまうという考え方。

（２）冒頭の部分から読み取れる、旅に対する作者の思いを、「～という気持ち。」の形で**二十五字以上三十五字以内**で書きなさい。 5点

（３）「三代の栄耀一睡のうちにして」の「三代」とは、だれの三代か。次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア　源氏三代　　イ　奥州藤原氏（清衡・基衡・秀衡）の三代　　ウ　平氏三代　　エ　徳川家の三代

（４）「三代の栄耀一睡のうちにして」とは、どういうことを言っているのか。「～こと。」の形で**二十五字以上三十五字以内**で書きなさい。 5点

（５）「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」について、正しく説明したものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア　芭蕉が自分で作った漢詩を、そのまま書き入れたものである。

イ　中国の詩人杜甫の漢詩「春望」の一節を踏まえた表現である。

ウ　『論語』の一節を、そのまま引用したものである。

エ　戦に勝つことを表す中国の故事成語である。

（６）（５）のように、すでにある有名な作品の表現を踏まえて書くことには、どのような効果があるか。**三十字以上四十字以内**で書きなさい。 5点

四　（つづき）

（7）「まづ高館にのぼれば」の「高館」は、だれにゆかりのある場所か。次から一つ選び、記号で答えなさい。［3点］

ア　源頼朝　　イ　平清盛　　ウ　源義経　　エ　徳川家康

（8）「夏草や兵どもが夢の跡」の句に、作者はどのような感慨をこめているか。「〜という感慨。」の形で**三十字以上四十字以内**で書きなさい。［6点］

（9）「五月雨の降り残してや光堂」の「光堂」とは、何のことか。次から一つ選び、記号で答えなさい。［3点］

ア　平泉の毛越寺にある庭園　　イ　平泉の中尊寺金色堂

ウ　京都の鹿苑寺金閣　　エ　日光の東照宮

（10）芭蕉の「不易流行」という考え方は、「夏草や兵どもが夢の跡」と「五月雨の降り残してや光堂」の二つの句にどのように表れているか。**三十五字以上四十五字以内**で書きなさい。［6点］

（11）この文章の文体と構成について、あてはまるものを**二つ**選び、記号で答えなさい。【完答】［3点］

ア　和語だけを用いた、やわらかくくだけた調子の文体で書かれている。

イ　漢語や対句を多く用いた和漢混交の文体で、格調の高い調子を生み出している。

ウ　地の文で情景や歴史を語り、その思いを俳句で結ぶ構成になっており、感動が強く印象づけられている。

エ　俳句だけを並べ、地の文はいっさい用いていない。

オ　会話文を中心にして、登場人物のやり取りで話を進めている。

（12）この文章にえがかれた「無常」（すべてのものは移り変わり、いつまでも同じではないというものの見方）について、あなたはどのように考えるか。**四十字以上五十字以内**で書きなさい。［5点］

解答用紙①　知識・技能

中学３年　国語科　教材別テスト⑦「夏草―『おくの細道』から」

３年	組	番	氏名	

知識・技能　小計

一　漢字 （１点×20）	①		②	
	③		④	
	⑤		⑥	
	⑦		⑧	
	⑨		⑩	
	⑪		⑫	
	⑬		⑭	
	⑮		⑯	

一（つづき）	⑰		⑱	
	⑲		⑳	

解答用紙①（つづき）　知識・技能

中学３年　国語科　教材別テスト⑦「夏草―『おくの細道』から」

３年　　組　　番　　氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

二　歴史的仮名遣い と古語の意味 （２点×９＝18点）	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)		(8)	
	(9)			

三　古典の知識 と 俳句の形式 （12点）	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)		(8) 季語	
	(8) 季節			

※　二（１）～（４）は、すべてひらがなで書きなさい。三（８）は、季語と季節の両方が合っていて正答です。

解答用紙②　思考・判断・表現

中学３年　国語科　教材別テスト⑦「夏草―『おくの細道』から」

３年	組	番	氏名

思考・判断・表現 小計	合計（100点満点）

四 「夏草―『おくの細道』から」の読解（50点）	(1)	
	(2)	
	(3)	
	(4)	
	(5)	
	(6)	
	(7)	
	(8)	
	(9)	

解答用紙②（つづき）　思考・判断・表現

中学３年　国語科　教材別テスト⑦「夏草―『おくの細道』から」

３年　　組　　番　　氏名		

四（つづき）	(10)	
	(11)	
	(12)	

※　記述問題は、解答欄におさまるように、ていねいな字で書きなさい。句読点も一字と数えます。字数は、（２）（４）＝25～35字、（６）（８）＝30～40字、(10）＝35～45字、(12）＝40～50字です。(11）は二つそろって正答です。